

新・こどもと健康

No.1

2016.7.20

はじめに

私、赤澤英樹はこの7月1日にかたぎり小児科を引き継ぎましたが、先代が168号まで連載した「こどもと健康」も引き継ぎ、「新・こどもと健康」と題して、発信していきたいと思えます。

10月1日からB型肝炎ワクチンが定期接種になる予定ですが、特に4～5月生まれの方は開始と同時に急ぐ必要性があります。

こどもと健康のNo.163(2016.1.15号)、No.164(2016.2.3号)、No.165(2016.3.7号)に掲載されていた「B型肝炎ワクチン定期接種化！」の記事と内容は同じで、10月1日から定期接種化される予定ですが、今一度想定をおさらいします。

- ① 定期接種対象者は平成28年4月以降に生まれた方です。それ以前に生まれた方は任意接種のままです。
- ② 1歳未満までが対象になる予定です。これが問題です。標準的には、生後2か月、生後3か月、生後7～8か月の3回接種というスケジュールでいこうとしていますが、4月生まれの方は10月ならもう生後5～6か月です。3回打つのに5～6か月かかるので、1歳未満までに完了させようとする、あまり時間的余裕がないのです。なので、全て公費で終わらせるなら、定期接種化されて速やかに開始する必要性があります。
- ③ 1回目や2回目までを定期接種(公費)で打って、3回目は任意接種(自費)というのは可能と思えます。逆に、4月生まれ以降の対象者であり、かつ定期接種が開始された時点で1歳未満であれば、先に任意接種(自費)で開始しておいて、定期接種が始まってから、残りを公費で打つことも可能と思えます。

※おそらく上記で開始されると思えますが、実際どう運営されるかは定期接種が開始されてから確認が必要です。

ヒト・メタニューモウイルス感染症について

ここ最近診察をしていますと、ヒト・メタニューモウイルス感染症の方がパラパラとおられます。聞きなれない方も多いと思います。実際2001年になってやっと発見されたウイルスです(かといって新興感染症ではありません)。

小児の呼吸器感染症の5~10%はこれが原因といわれています。毎年のように流行があり、3月から6月が特に多いとされ、1~2歳辺りに強い症状が出やすい傾向にあります。

症状はRSウイルスとかなり似ていますが、RSウイルスよりは若干マイルドといったことが多い印象です。具体的には、発熱(1~3歳の小児では4~5日間)、咳嗽、鼻汁が出現し、幼少児では喘鳴(ゼイゼイいうこと)を伴うことがあります。鼻汁や咳嗽は1週間以上続くことが多いです。生後数か月ですと、発熱を伴わないときもあります。一般的には年齢が上がると症状は段々と軽くなります。

感染経路は飛沫感染、接触感染で、潜伏期間は3~5日間とされています。5歳までにほぼ全員がかかると言われ、免疫は1回ではつかず、何度も再感染します。特効薬はなく、対症療法になります。幼少児や基礎疾患のある方では呼吸困難、状態不良で入院を要する場合があります。

検査をして必ず確定しないといけない病気ではありませんが、検査キットができており、平成26年1月から、「ヒト・メタニューモウイルス感染症が疑われる、6歳未満の、画像診断により肺炎が強く疑われる患者さん」を対象に保険が認められるようになっていきます。

学校保健安全法の出席停止対象にはなっておらず、明確な規定はありませんが、日本小児科学会は「咳などの症状が安定した後、全身状態のよい者は登校(園)可能であるが、手洗いを励行する」としています。熱が1日以上下がっていて、咳や鼻汁が嫌がられない程度ならいいと思います(幼稚園・保育所などによってそれぞれ基準がありますので、通っておられるところと要相談ではあります)。

予防として日本小児科学会は、接触感染としての(手洗いやうがいといった)一般的な予防方法を励行するとしています。

休診のお知らせ

8月8日(月)から10日(水)は内装工事のため、休診とさせていただきます。※お盆辺りの12日(金)・13日(土)・15日(月)は通常通りです。ただし、12日の午前診と夕診は片桐医師が代診します。